



笑顔いっぱい大北小 みんなで育つ大北小

大北小だより

1月号

平成29年1月10日

練馬区立大泉北小学校

校長 内木 勉

<http://www.ooizumi-n-e.nerima-tky.ed.jp/>

新しい年を迎えて

校長 内木 勉

明けましておめでとうございます。暖かで穏やかな新春を迎えました。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、ご家族とともに健やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。昨年は、本校の教育活動に、ご支援ご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

さて、今年は酉年です。「酉」という漢字は、口の細い酒つぼやとっくりを表す象形文字が変化して「酉」という字が作られたと言われています。「酉」に水を表す「さんずい・氺」がつく事で「酒（さけ）」という字に変わります。「酉」は収穫した作物からお酒を抽出するという意味や、果実が成熟し収穫できる状態を表し、実りの時期、物事が頂点に達する時期を表すという意味があります。また、「酉」は「鶏：にわとり」を表し、鶏はどの鳥よりも朝一番に鳴き、私たちに時を報せることから「時告げ鳥」とも呼ばれ、神聖な動物とされています。そのため、鶏は昔から縁起の良い象徴であるとされているのです。



「酉」年に込められた願いのごとく、大北小の子どもたちが、これまで勉強してきた事や、努力してきた事が実りの時を迎え、未来に羽ばたいていくための力を育めるよう、充実した教育活動に取り組んでいきたいと、新しい年を迎え、教職員一同、決意を新たにしております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

大北小のマスコットが決まりました！

子どもたちに大北小のマスコットのデザインを考えてもらいました。約200ものアイデアが出され、その中からいくつかの案にまとめ、昨年12月に投票をしてもらいました。その結果、子どもたちから選ばれたのが右のマスコットです。名前は『きったー』と言います。

『きったー』は大北小の校章をモチーフにしています。5枚の葉は、大北小のシンボルツリーである「けやき」の葉になっています。中心部は「大北」の字からできています。黄色の色は校歌にも出てくる「北斗七星」を表しています。

これからいろいろな場面で『きったー』が登場します。子どもたちが考えた大北小のマスコット『きったー』をよろしくお願いします。



『きったー』です！
よろしくお願いします！

研究だより ～4年生 研究授業～

4年 加藤 万知

11月25日（金）に今年度3回目の校内研究授業があり、4年生がゲーム領域の学習に取り組みました。ソフトバレーボールを使って「ふわふわバレーボール」というゲームをしました。

集団対集団で競い合うネットを使ったボール運動は、仲間と協力して力を合わせて競争することで楽しさや喜びを味わうことができます。名前を呼び合い、声をかけ合ってボールをつなぐ中で、少しずつ子供たちの動きや表情もほぐれていきました。

学習の前に、チームで集まって給食を食べながら、試合で使う作戦を話し合って決めました。

「相手のいるすきまをねらえばいいよ。」

「サーブがポイントになるから、ねらって打とう。」

「じゃあ、攻撃する作戦と合体させて……」

実際にやってみると、うまくいく作戦もいかない作戦もありました。授業の最初、一時間の学習を終えてから書く学習カードには、「勝って嬉しい。」「負けて悔しかった。」という感想が多かったのですが、授業を重ねていくうちに変わっていきました。

勝敗だけにこだわるのではなく、自分たちのチームのよかったところやもっとよくできるところに目が向くようになりました。授業の中盤からは「今回の作戦はうまくいったから、もっと声をかけ合っていく。」「自分のチームはここが弱いから、次はうまくいくように作戦を練り直す。」というように、「チームのこれから」を見据えた前向きな言葉が並ぶようになりました。



普段の休み時間は、ドッジボールやサッカーをして遊んでいることの多い子供たち。初めは、ボールを受け取ることはできても、はじく動作には慣れていない様子が見てとれました。しかし、楽しんでゲームをしているうちに、ボールを力いっぱい弾く楽しさに気付き、「どうすれば力強い攻撃ができるか。」を考えて、動くようになりました。「前の人が高くボールを投げあげるといい。」と気付いてからは、友達を呼ぶ声も大きくなりました。



昔よりも自然の中での遊び場は減少しているという報道を見るたび、そんな時代だからこそ子供たちには体育の学習を通して、様々な身体感覚を養わせたいと思います。

「先生！ 初めてボールを打てたよ！」

「ずっと負けていたけど、初めて勝てた！」

と、声をかけてくれる子供たちの明るい笑顔を見て、私自身も前向きな元気をもらいました。



岩井移動教室

5年 堀内 直子

10月31日から11月2日まで、5年生は岩井移動教室へ行ってきました。初めての移動教室は友達と一緒に寝食を共にする3日間で、誰にとっても楽しくてワクワクする気持ちで迎えました。反面、親元を離れ、いつもとは違う集団生活で予想もつかないことから、不安もあったことと思います。多くのお家の方に見送られながら、出発して行きました。

1日目の始めの行程は、新日鐵住金君津工場の見学でした。ここは、製鉄工場です。日本の鉄の生産量は世界第2位ですが、品質は世界第1位とされているということや原料である鉄鉱石を輸入し、工場で混ぜて生産していることなどの説明を聞き、映像を見ました。それから実際に圧延工場の中に入り、真っ赤に固まっている鉄の厚い板に水をかけ、だんだんに薄く延ばしていき、最後にはロール状に巻き取る過程の脇を歩きながら2km近くを見て行きました。工場を出て来た時の子どもたちの反応はとにかく「熱い！熱い！音がすごい！」というもので、鉄を生産する作業の大変さを目の当たりにし、工場で働く方たちの気持ちも理解できたことと思います。この見学は、12月の社会科見学にも繋がっていました。鉄を使って自動車を生産している日産追浜工場を見学し、その自動車を川崎港から輸出していくまでを見ていくというものです。東京湾周辺で日本の工業生産が大規模に行われていることを実際に自分の目で見ることにより、今後日本の未来や自分の将来について考える際に、思考を深め広げる体験となってくれればと思っています。

2日目は、鴨川市にある大山千枚田へ行ってきました。5年生は、総合的な学習の時間に、4月からバケツで一人一人稲を育て、僅かながら米を収穫することを経験しました。また、大泉の地域の方の協力を得て、橋戸田んぼで田植えや稲刈りをする機会にも恵まれました。そして今回は棚田という希少な場での米作りの様子を知るためにここを訪れました。東京から一番近い棚田ですが、急激に失われていく棚田をなんとか保存していこうと頑張っている保存会の皆さんにいろいろ教えていただきました。子ども達は、3つの中から希望に分かれて体験学習をしていきました。その1つは、藁細工です。稲穂を刈り取った後の藁で、かわいい亀を編みました。保存会の方々が小グループに分かれて丁寧に教えてくださいました。作業は難しいのですが、皆真剣に取り組み、上手に出来上がった時には、誇らしげにしていました。2つ目は藍染めです。ビー玉を入れたり、模様を描いたりし、あたかも科学実験をするようにして、世界に一つだけの自分のハンカチを染め上げることができました。3つ目は自然観察会です。棚田には30種類近くのバッタや蛇やザリガニなどがいます。現地の方と共に山を歩きアケビを食し、刈取り後の棚田を思い切り走り回って珍しい貴重な生き物を見つけたりし、自然を思い切り満喫してきました。

3日目は、地元の魚屋さんに手解きを受けて、アジの干物作りの体験もしました。日頃とは違う様々な見学や体験を通して、子どもたちは成長していきます。岩井移動教室後の子どもたちの感想は、「予想以上に楽しかった！」ということで、この移動教室での体験から5年生後半さらなる成長をすることを期待し、見守っていききたいと思います。



1月行事予定表

◎今月の生活目標:学習の用意をきちんとしよう(忘れ物をしない)

みんなで使う物を大切にしよう 進んであいさつしよう

日	月	火	水	木	金	土
1 元日	2 振替休日	3	4	5	6	7 冬季休業日終
8	9 成人の日	10 3学期始業式 4時間授業	11 安全指導 給食始 すっきり生活始 (~18日)	12	13 B時程	14 土曜授業公開 1校時 「どんど焼き集会」 けやき班遊び
15	16 全校朝会 B時程 計測6年 5時間授業	17 社会科見学6年 身体計測5年 校内書初展始 (~31日) すっきり生活終	18 給食委員会集会 身体計測4年 避難訓練	19 身体計測3年 どんど焼き集会 予備日	20 身体計測2年	21 小連合図工展始 (~26日)
22	23 全校朝会 計測1年	24	25 大縄集会 4時間授業 (展覧会準備のため)	26 小連合図工展終	27 展覧会 (児童鑑賞日)	28 展覧会 (保護者鑑賞日) 4時間授業 連合書初展始 (~29日)
29 連合書初展終	30 振替休業日	31 校内書初展終	2/1	2/2	2/3 節分集会 新1年保護者会	2/4

「思いやひらめき大切に たくさんステキを見つけよう！」 図画工作 佐藤 章子
今月末に予定している展覧会。今年度のテーマには、2つの思いを込めています。

1つ目は自分の思いを大切に、最後まで愛着をもって作品と向き合い、自分でも素敵だと思える表現をしてほしいということです。2つ目は、友達の思いに触れ、そのひらめきや発想をじっくり鑑賞して、素敵だと感じることをたくさん見つけてほしいということです。

今回は異学年で交流して、作品を紹介し合う時間を設けます。また、6年生による学芸員の取り組みも行います。みんなの「ステキ」が集まった大北小の展覧会、ぜひご来場ください。

「市場跡の住宅」

副校長 大野 正人

年末、地元で買い物に出た際に見たことです。行ったのは「〇〇〇市場」と呼ばれ、子供の頃は夕方になると多くの人で買い物に来て、通行することすらできなかった商店街です。人口減少のためか、かつてのような賑わいはありませんでした。市場自体は2年前に閉場し、その後取り壊された跡地は更地になりました。しかし、その周りには多くの商店が今も営業しています。歩いていくと、しばらく更地だったのでまだそのままだろうと思っていた市場跡に3軒の戸建て住宅が建てられていました。見た瞬間、(商店街の中に住宅という)違和感とともに様々なことを考えさせられました。

報道では、少子高齢化が言われて久しいです。理解しているつもりでも、なかなか実感が伴わないものでした。しかし、こうして多くの商店が入っていた市場が人口が減ることによって続けることが難しくなり閉場し(もちろん異なる要因もあるでしょう)、普通の住宅が立つという状況は、実感として恐ろしいものがあります。人口の減少が多くの変化をもたらします。違いがあれども、今後多くの場面で見られることです。一人一人に、見通す力と対応できる力が求められています。

学校では、様々な変化に対応するための基礎的な力を身に付けられるように授業改善を進めたり、友達と協力して一つのものをつくるような学校行事を行ったり、地域の方や施設との交流を図ったりしてきました。12月にいただいた、皆様からの評価も参考に、次年度の計画を立てていきます。